

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-142	24-315	慶應義塾大学名誉教授 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Alcohol use disorders among healthcare professionals: a call for action 医療従事者におけるアルコール使用障害：行動の呼びかけ		
執筆者		
Hannah W Waithera <sup>12</sup> 、 Harrieth P Ndumwa、 Belinda J Njiro <sup>4</sup> 、 Rehema Chande-Mallya <sup>5</sup> 、 William Julius <sup>5</sup> 、 Monica Swahn <sup>6</sup> 、 Catherine A Staton <sup>7</sup> 、 Joel M Francis <sup>8</sup>		
掲載誌		
Health Promot Int. 2024 Oct 1;39(5):daae121.doi: 10.1093		
キーワード	PMID	
アルコール使用障害、医療従事者、大量飲酒、危険な飲酒	39397748	
要 旨		
<p>アルコール摂取および有害・危険な飲酒は、世界の疾病負担に大きく寄与しており、世界全体で年間約 300 万人の死亡原因となっている。医療従事者はストレスの多い職場環境のため、身体的・精神的健康問題、特にアルコール使用障害を発症するリスクが高い。医療従事者におけるアルコール使用障害は、仕事の生産性やパフォーマンスの低下、関連する健康障害や認知機能障害と関連しているため懸念される。したがって、本レビューは医療従事者におけるアルコール使用障害の有病率と関連要因に関するエビデンスを収集することを目的とした。その結果、医療従事者におけるアルコール使用障害の有病率が高いことが明らかになり、COVID-19 パンデミック中に悪化していた。さらに、低・中所得国で実施された研究が著しく不足していることが判明した。これらの問題に対処するためには、緊急の介入と支援システムが必要である。個人および組織的要因を考慮した包括的アプローチと、エビデンスに基づく介入、研修、支援プログラムを組み合わせることで、医療従事者のウェルビーイングを促進し、患者ケアの質を向上させることができる。アルコール使用スクリーニング、予防的介入、治療的介入を、プライマリヘルスケアおよび精神科サービスと統合することが不可欠である。これにより、早期診断と予防的・治療的措置のタイムリーな開始が確保され、機会損失のリスクを低減できる。さらに、医療従事者に対して効果的な人的資源管理サービスを提供することは、彼らのウェルビーイングを大幅に高め、アルコール使用障害の予防に役立つだろう。</p>		